

## 本学男子学生における月経理解度と 対応についての調査

佐山真由\* 永田美智\*<sup>§</sup> 尾形隆夫\* 畑本大介\*

### I. 研究の概要

#### 【背景】

現代女性が一生のうちに経験する月経の回数は、戦前あるいはそれ以前の女性と比較すると4～8倍も多い。一方でフェムテックのようなテクノロジーの活用により、性や健康に関する女性特有の問題解決を目指す分野が急速に成長している。しかしながら私たち女子学生は、日常生活において月経による痛みや体のだるさなどの症状があったとしても、周囲に言いづらく我慢をしていることが多い。2020年2月、ミューゼマーケティングが行った全国20～34歳の就労女性2,319名を対象としたインターネット調査においても、生理休暇を取得したことがあると答えた人は、僅か5%という結果である。本邦では小学4年時から性に関する授業があり、月経への理解や配慮が存在する社会であるはずが、必ずしもそうではない現状に疑問を感じた。そこで今回は実状を把握するべく、本学男子学生がどの程度月経を理解しているのかと、月経時の女性への対応について調査した。

#### 【対象と方法】

対象は静岡医療科学専門学校に在学する男子学生185人とし、質問紙を用いた。質問内容は、月経に対する理解度と、月経で苦しむ人に対する

行動について複数回答可能な選択方式とし、それぞれ自由回答も可能とした。なお本研究は、静岡医療科学専門学校倫理委員会の承認(R3-12号)を得て実施した。

#### 【結果】

全体の有効解答率は、77.8%だった。月経を理解していると回答した人は84%、理解していない人は16%。理解している内容としては身体の変化が最も多く80%、周期が37%と低かった。月経で苦しむ女性に対して行動する人は93%、行動しない人は7%。行動する内容は、気を遣うが90%と最も多く通院を勧めるが11%と低かった。

#### 【考察】

本学男子学生における月経の理解度は、あすか製薬株式会社の「女性のための健康ラボ Mint+」が実施した意識調査(2020年6月)と比較すると、非常に高い結果が得られた。その理由は、本学が医療系学校であり月経について学ぶ機会があるからであると推察した。けれども世間一般男性においては、月経に対する理解は決して高いとは言えない。今後女性が月経に関することをオープンに話せるようになるためには、性に関する教育だけでなく、女性自身の身体について女性側から男性に気持ちを伝えることが大事であり、そこにSNSの活用も期待される。男性側も月経の問題に寄り添うことができれば、女性が真に社会で活

\* 静岡医療科学専門学校医学検査学科 <sup>§</sup> nagata@shiz-med-sci.ac.jp

躍することにつながると考えられた。

## II. 受賞の感想

この度は、第16回日本臨床検査学教育学会学術大会において、優秀発表賞を頂き誠にありがとうございます。このような栄誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。

学会で発表するにあたり、口演を聞いてくださる方々に内容を伝えるためには、発表の仕方やスライドの構成を工夫することが重要であるということを知ることができました。さらに実際に現地で学会に参加することで、同じ学生でありながら多彩な分野の様々な発表があることを知り、それを生で拝聴できたことは、私にとってこれまでにない良い刺激となりました。

今回の発表は初めてのことであり、不安でいっ

ぱいでしたが、ご指導いただいた永田先生はじめ、研究のメンバーの越戸さんの支えもあり、無事終えることができました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

## III. 将来への抱負

この研究活動を通して最も強く感じたことは、1人でできることは限られているということです。今回の学会発表においても、先生だけでなく研究メンバーにも多くの知恵を出してもらい、やっとのことで完成することができました。私は来年度から、病院で臨床検査技師として働く予定です。1人ではなく、周囲の仲間と力を合わせることの大切さを忘れずに業務に取り組み、今後も積極的に学会に参加し、自己研鑽に努めていきます。